十人十色（じゅうにんといろ）

子ども発達相談室ってなあに？

問／福祉事務所子育て支援係
☎72-1123（内線505）

子どもの言葉の発達は個人差が大きいことから、不安を抱える保護者の方々も多いと思います。

本市では、言葉などの発達に関して気になるお子さんへの支援やその保護者の方々にお子さんへの関わり方について助言を行うため「子ども発達相談室」を実施しております。

この相談室では、言語聴覚士が一人一人にあった丁寧な評価と支援で関わります。相談内容としては、「発音が不明瞭」「どもってしまう」「言葉がなかなか出ない」などさまざまです。

「どんなことをするの？」と聞かれますが、口の動きを確認したり、訓練をしたり相談内容によって変わります。ただ、初回の相談では、食事の様子など日常の状況についてお聞きします。言葉の発育には「舌」と「唇」の動きが大事であり、それは食事にもいえます。食事には食べ物を口に入れ、飲み込むまでに「唇を閉じ」「歯で噛み」「舌を使ってかき集め、喉へ送り込む」という動作が生じます。おしゃべりも同様に唇の開閉や舌先の上下運動で「音」を作り出します。このように、毎日の食事で発音の基礎がつくられるのです。

また、中には「集中して食べてくれない」という声も聞かれます。要因としては生活リズムが大きく影響している場合があります。睡眠時間や食事時間がバラバラだと集中力に欠け、おいしく食事を楽しめません。そのため、言葉だけに注目せず、毎日の食事や生活を見直し意識してもらうことから始める場合もあります。その他にも、舌が短いなどの構造上の問題や聴力面の問題もあります。例を挙げたのはほんの一部であって、発音などの言葉の悩みは1つにしても原因はさまざまです。

言葉や発音について「少し気になるけど、そのうちよくなるだろう」「上の子もそうだった」とそのままにせず、言葉や発音などで気になることがありましたら、まずはお気軽にご相談ください。

子ども発達相談室

●**日時**＝毎週金曜日　午前中
（お1人あたり40分～60分程度）
※予約制
●**場所**＝市総合保健福祉センター2階
（すこやかひろば）

ハッピースマイル

北浦 咲虹（きたうら さにじ）ちゃん
（令和3年3月6日生）
北浦祐聖（ゆうせい）・千聡（ちさと）さんの長女（本城地区）

感情表現が豊かで、特にとびきりの笑顔がかわいい咲虹ちゃん。音楽が好きで、体を動かして楽しく遊んでいます。最近は「ごちそうさま」などの身振りをよくマネしており、今後の成長が楽しみです。みんなに優しくできる明るい子に育ってね。

子育てINFO

『子育て中のお悩み相談室』

言葉の発達は、身体の発達以上に個人差があり、保護者の方々は「うちの子は言葉が遅い気がする…」と心配することも多いと思います。3歳までのお子さんに言葉が遅いかなと思うときは「言葉が出るための準備」ができているかどうかを確かめてみてください。お話をするために必要な力は主に5つあります。「①いろいろな音に気付く（聴力）②大人の言うことが分かっている（言語理解）③困ったことがあると大人に頼る（対人関係）④よく声を出す（発声）⑤声や身振りのまねをする（模倣）」。これらのことがだいたいできていたら、言葉の遅れをあまり心配せず、睡眠や食事などの生活全般を見直しながら楽しくコミュニケーションをとってあげてください。また、言葉は年齢だけに着目するのではなく、その子の全体的発達とのバランスでみていくことが大事です。言葉などの発達のことで少しでも気になることがあれば、福祉事務所子育て支援係までご相談ください。

『子ども予防接種』

●**麻しん風しんワクチン**
第1期　生後12カ月から生後24カ月までの間にある子ども
第2期　5歳以上7歳未満の年長児にある子ども（無料接種期間は3月末までです。未接種の方はお早めに！）

●**子宮頸がん予防ワクチン**
子宮頸がん予防ワクチンは定期予防接種です（無料）
●接種対象者：小学6年生から高校1年生の女子
接種希望の方は福祉事務所子育て支援係にてあらかじめ説明を受け、かかりつけ医にてご接種ください。

すくすくのびのび 子育て支援情報

お子さんと一緒に料理を作る時間を増やしてみませんか？

子どもにとっての「料理作り」は、考える力や主体性を育み、自己肯定感を高めるための大切な学びの場になります。

子どもと一緒に料理を作ると、「危なっかしい」「かえって時間がかかる」「片付けが大変になる」などの理由から「親に時間や気持ちの余裕がないとできない」と聞くことがあります。子どもに任せても親の思うとおりにはできずに、いら立つことがあるかもしれません。

しかし、子どもはその経験の中でさまざまなことを考え、工夫し成長していきます。

また、料理作りを体験することで「食」への関心が高まり、好き嫌いが減ったり、食べ物を大切にする心が育ったりすることにつながります。

ちょっとずつできることを増やして

幼児期から

※ステップ1（こんなことから始めてみたら）
○ミニトマトのへたを取る
○玉ねぎの皮をむく
○レタスやキャベツをちぎる

※ステップ2（できることを増やして）
○野菜や果物などを洗う
○米を計る
○おにぎり作り

※ステップ3（いろいろできるようになったら）
○米を研ぐ
○材料を混ぜる
○卵を割る
○豆腐など柔らかいものを切る

学童期になったら

・作るものを考える
・材料を決める
・材料をそろえる
・食品を選ぶ
・器具を片付ける
・食卓の準備をする
・食器を片付ける
・食器を洗う

「食」に関わるさまざまな場面でお子さんの発達の段階や、やる気などの様子を見ながら、少しずつできることを増やしていくといいですね。

誰かの役に立ったという喜びを味わうことが、**自己肯定感**を高めることにつながります。
「よくできたね」と褒めるだけでなく、**「ありがとう」**や**「助かるよ」**など感謝の気持ちを伝えることも大切です。

問／福祉事務所こども政策係☎72－1123（内線506・527）